足柄上病院再編計画の再検討について

神奈川県立病院機構　本部事務局

2024.8.29

神奈川県立病院機構が目指す姿

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

県立病院機構だから…

① 県内の医療をリードする存在
② 他の医療機関機能を補完する存在
③ 災害・危機時に期待される機能を果たす存在

Mission 果たすべき使命

① 日本一患者安全を目指す病院群になる

Vision 目指す将来像（あるべき像）

② DX（デジタルトランスフォーメイション）によってスマート病院群になる

Value 職員行動のプライド（人材･組織価値）

③ 少子高齢化に適合したハイクオリティ医療提供の病院群になる

令和２年度策定の足柄上病院の再整備構想

令和2年(2020年)11月
足柄上病院の再整備構想（案）作成

［足柄上病院　再整備のコンセプト］
元気に生き生きとくらせる「いのち」を守る病院

回復期医療

地域包括ケア病棟を活用して、在宅医療までシームレスに対応します。

感染症医療

第二種感染症指定医療機関として、県民の安全安心を守ります。

災害時医療

災害拠点病院として、県西地域の住民を守る砦（とりで）を目指します。

救急医療

第二次救急医療施設として、住民のいのちを守る医療を提供します。

令和２年度策定の足柄上病院の再整備構想

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

回復期医療、感染症医療、災害時医療、救急医療（**＝感染症対応**）が基本コンセプト

４本柱		目指す指定等	新たに整備する機能
1	回復期医療	地域包括ケア病棟	2号館に**地域医療連携室**、**地域包括支援センター**を移転
			地域の訪問看護ステーション等の新設
			未病センター、認知症カフェ等の**未病関連施設**の拡充
2	感染症医療	第二種感染症指定医療機関	**感染症病床の全個室化**と1床当たり**面積の拡大**
			陰圧病室を整備し、**28床を感染症用の病室として運用**
			発熱外来を2号館1階に**移転**し、災害時に災害対策本部に指定
			発熱患者用X線検査室の新設
3	災害時医療	災害拠点病院	災害時の**トリアージスペース**・**救急室**の新設（通常時はリハ室）
			防災倉庫の集約、一元化
			災害時患者収容スペースの新設（通常時は特定行為研修室）
			スタッフ宿泊室の新設（通常時は食堂・厨房）
4	救急医療	二次救急医療施設	分散していた**陰圧個室の一体化**による感染症対応の効率化
			検査科の集約による感染症検査結果判定の迅速化
			重症患者受け入れ態勢充実のための**3号館HCUの改修**

令和2年度策定の再整備構想の課題

令和２年度策定の再整備構想の課題

課題１　病院の機能を現状・将来予想に合致させる必要

感染症医療
・新たな**感染症予防計画（R6.3月改定）**が策定
（当初の構想はコロナ最初期、ダイヤモンドプリンセス号対応当時の思想のまま）

救急医療
・**高齢者救急**の考え方の反映
（高齢者の多い地域、他病院との役割分担を考慮するべき）

回復期医療
・新たな診療報酬の定義**「地域包括医療病棟」**の検討

医療DX
・**医療DX**の観点の追加
（高齢者が多くアクセス面で不利な足柄上病院は、DXが不可欠）

課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

・コロナ補助金が多かった2020～2022年を除き、**2011年以降全て純損益が赤字**

課題１　病院の機能を現状・将来予想に合致させる必要

感染症医療

・新たな**感染症予防計画（R6.3月改定）**が策定
（当初の構想はコロナ最初期、ダイヤモンドプリンセス号対応当時の思想のまま）

**神奈川県
感染症予防計画
（R6.3月改定）**

- 感染症法第10条に基づき策定する、感染症の予防の総合的な推進を図ための基本的な計画
- 令和６年３月の改定のポイントは次の通り
  ① **新興感染症**への対応の強化
  ② 医療提供体制等の、**流行の段階に応じた数値目標**の設定
  ③ 医療機関が講ずべき措置に係る、**県と関係医療機関との協定**の締結

	流行初期*	流行初期以降
確保病床数	980床	2,200床

*厚生労働大臣による発生の公表後、３か月を基本として必要最小限の期間

R6.5.1時点で、
141機関と締結済
（足柄上病院を含む）

**足柄上病院での感染症病床28床は妥当か、
県全体で感染症対応を担う考えに沿っているかを検討する必要がある**

課題１　病院の機能を現状・将来予想に合致させる必要

救急医療
回復期医療

・**高齢者救急**の考え方が反映されていない　（他病院との役割分担を考慮するべき）
・新たな診療報酬の定義**「地域包括医療病棟＊」**が考慮されていない

近隣の公的医療機関

小田原市立病院
（３次救急医療機関）

- 急性心筋梗塞や狭心症等の**急性冠症候群**
- 脳梗塞や脳出血、くも膜下出血等の**脳卒中疾患**

秦野赤十字病院
（２次救急医療機関）

- **小児科**の受入れ体制強化
- **脳神経外科**の脳卒中センターの設置

足柄上病院
（２次救急医療機関）

- ２病院がメインにしていない**高齢者医療をカバーすべき**
- **地域包括医療病棟**の検討

機能分担

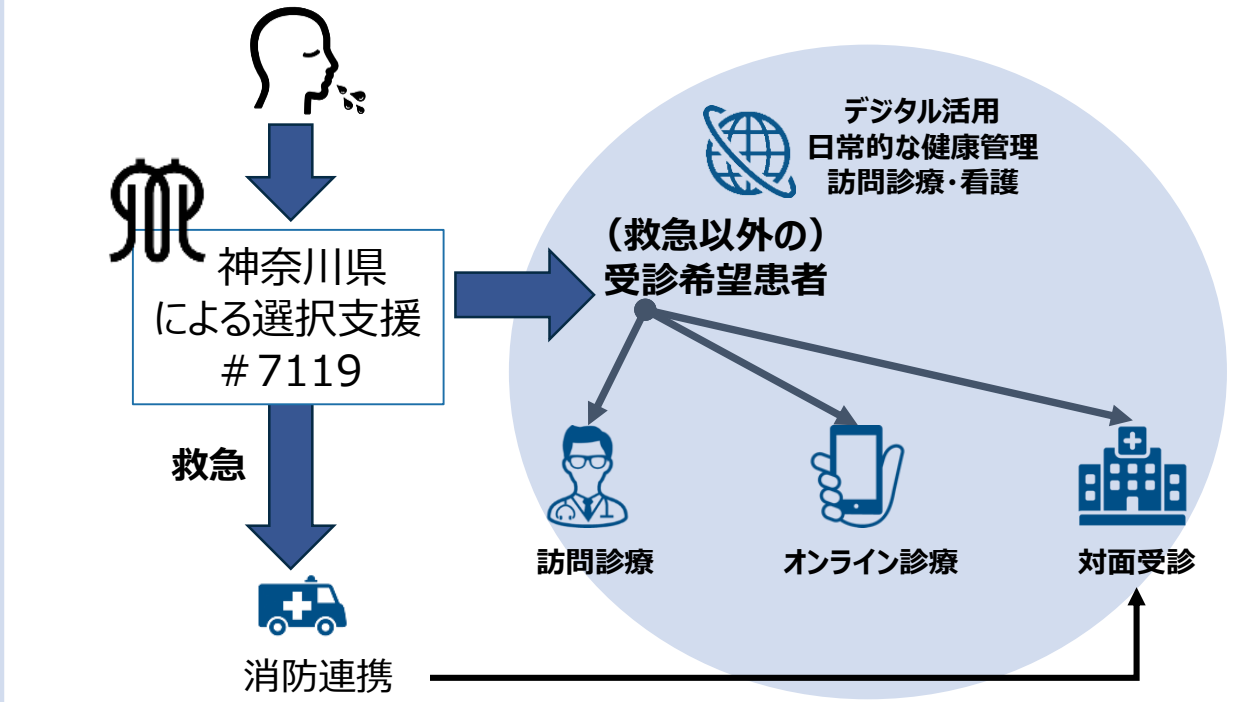
人口推移・周辺環境からも、高齢者の急性期・回復期医療に注力し求められる病棟展開が必要

*地域包括医療病棟：高齢者の救急患者等に対して、リハビリ、栄養管理、入退院支援、在宅復帰等の機能を包括的に提供する病棟

課題１　病院の機能を現状・将来予想に合致させる必要

医療DX

現行構想では**DX技術の言及がない**が、新型コロナ後の現在、医療の在り方は大きく変化
急速に発達するDX技術の活用が不可避になりつつある



市民の需要に応じた受診形態の確保

① **対面受診**
緊急検査・処置需要・救急搬送

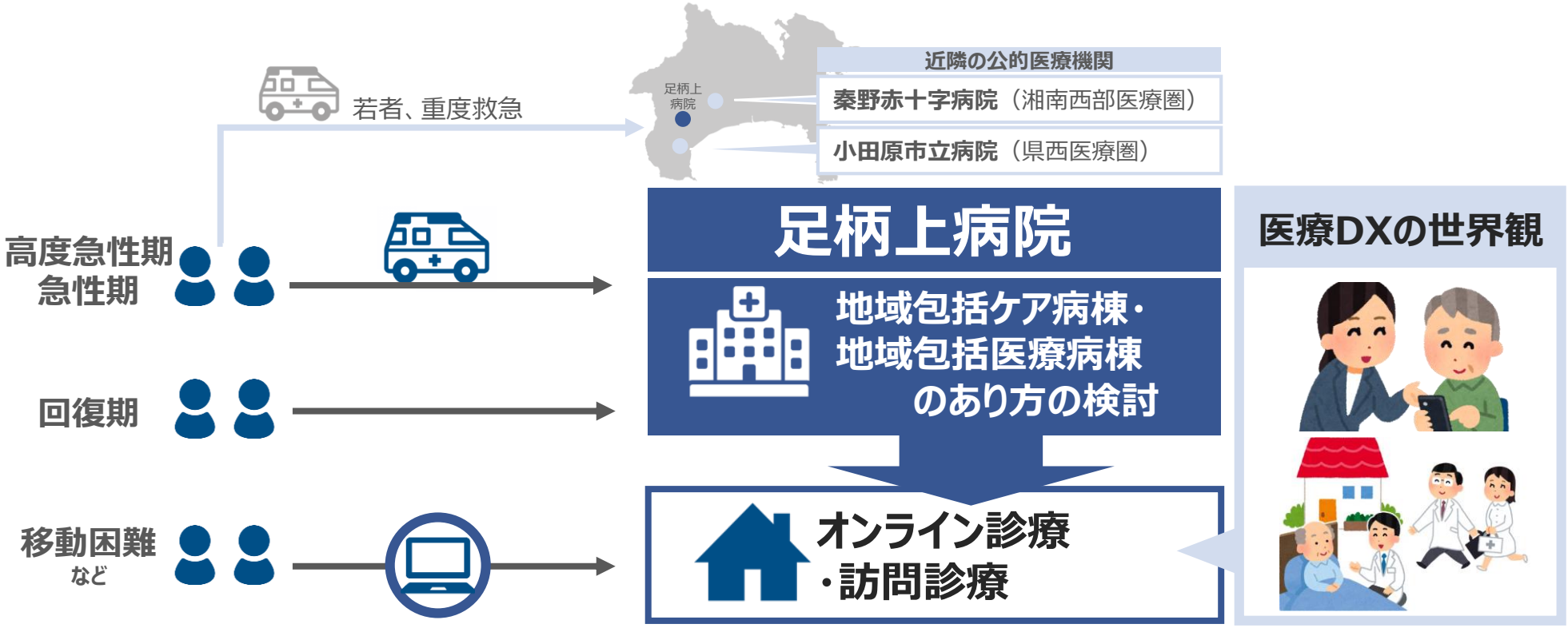
② **オンライン診療**
デジタルリテラシー・就労世代

③ **訪問診療**
移動の困難性・基礎疾患

患者の利便性を向上させ医療の効率性を高める
DX技術の積極的活用の方針検討が必要

課題１　病院の機能を現状・将来予想に合致させる必要

高齢者を守る病院として再構築



医療DXなども活用しながら、様々な形で高齢者を守る医療を提供する

課題１のまとめ　５つの柱で未来型の地域医療へ

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

基本構想の４つの柱に「医療ＤＸ」を加え、さらに未来型の地域医療に進化

	1	回復期医療	地域包括ケア病棟 リハビリテーションの拡大	**更なる高齢化の進展等の様々な変化に適合する、足柄上病院の地域において果たすべき役割を踏まえた医療の提供**
	2	感染症医療	第二種感染症指定医療機関	新たに策定された**県感染症予防計画**の考え方を踏まえ、県西医療圏における感染症医療のあり方を改めて整理
	3	災害時医療	災害拠点病院	
	4	救急医療	二次救急医療施設	高齢者救急の必要性を中心にして、**救急医療のあり方**を改めて整理
新	5	医療DX	ICTによる未来型の地域医療	**オンライン診療などICTを活用した新たな医療を、積極的に取り入れる**

（再掲）　令和２年度策定の再整備構想の課題

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

課題１　病院の機能を現状・将来予想に合致させる必要

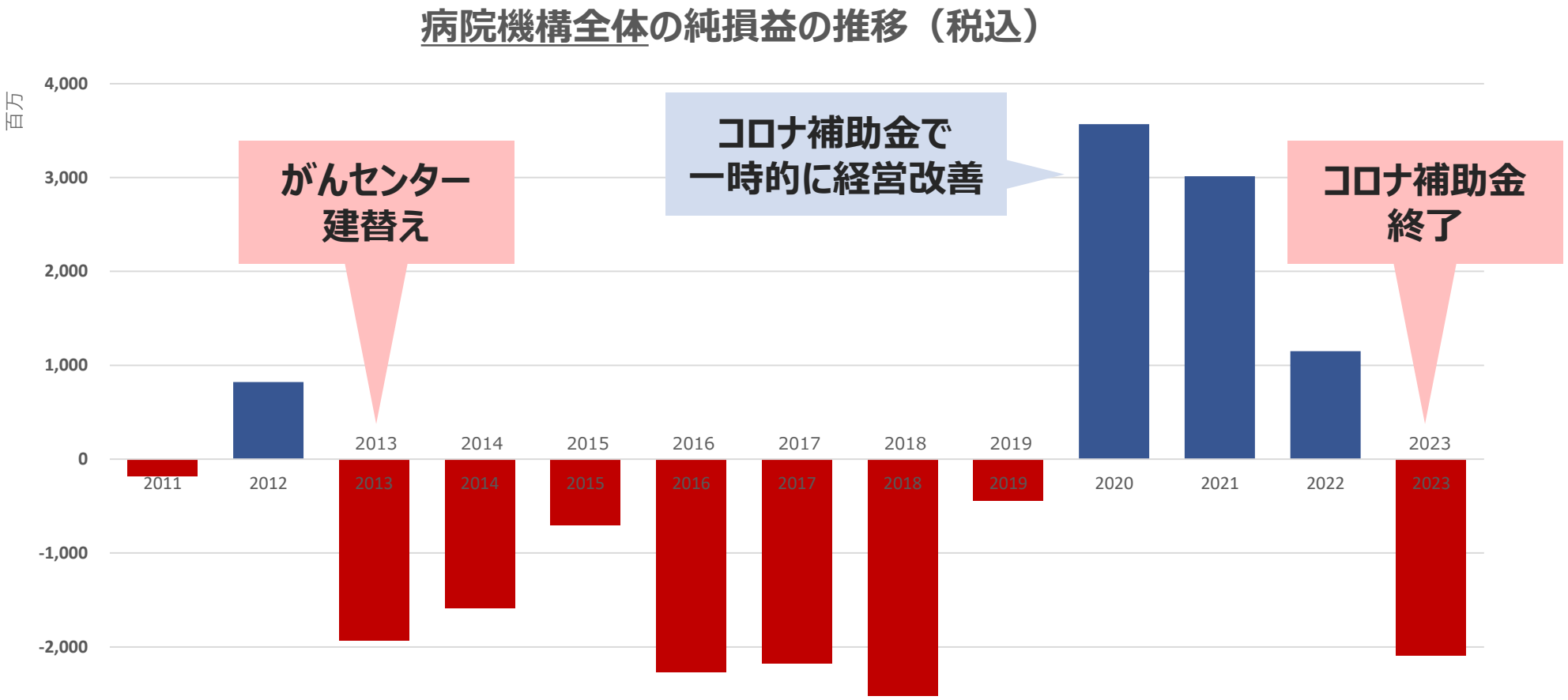
感染症医療	・新たな**感染症予防計画（R6.3月改定）**が策定 （当初の構想はコロナ最初期、ダイヤモンドプリンセス号対応当時の思想のまま）
救急医療	・**高齢者救急**の考え方の反映 （高齢者の多い地域、他病院との役割分担を考慮するべき）
回復期医療	・新たな診療報酬の定義**「地域包括医療病棟」**の検討
医療DX	・**医療DX**の観点の追加 （高齢者が多くアクセス面で不利な足柄上病院は、DXが不可欠）

課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

・コロナ補助金が多かった2020～2022年を除き、**2011年以降全て純損益が赤字**

課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

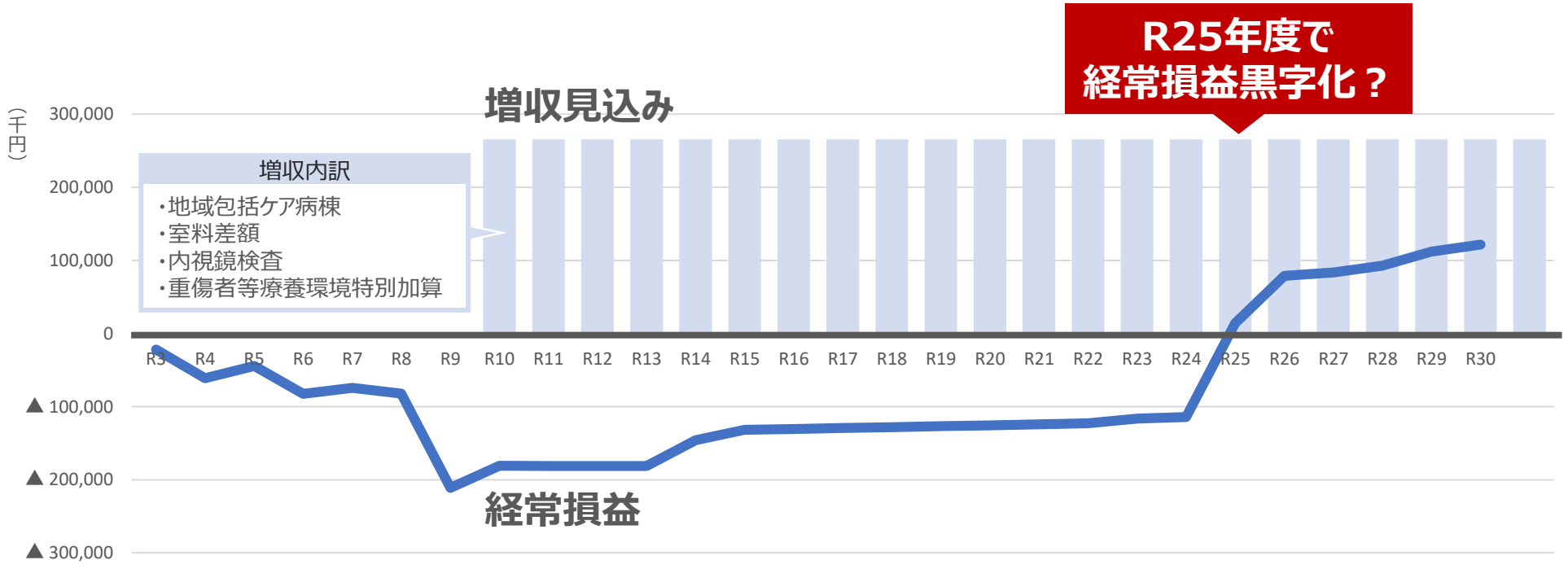


2024年度から機構改革を進めているが、
組織全体が慢性的な赤字体質である

課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

足柄上病院の再整備工事実施による増収見込みと経常損益



増収見込みが人口動態や地域ニーズを考慮しておらず、
現在の経営状況を踏まえ現実的に修正する必要

課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

足柄上病院の収支動向について

○　令和５年度決算　④＝①－②＋③

①医業収益	②医業費用　他	③運営費負担金　他	④経常利益
4,916百万円	6,968百万円	1,539百万円	▲513百万円

○　令和６年第一四半期決算　④＝①－②＋③

①医業収益	②医業費用	③運営費負担金　他	④経常利益
866百万円	1,600百万円	345百万円	▲389百万円

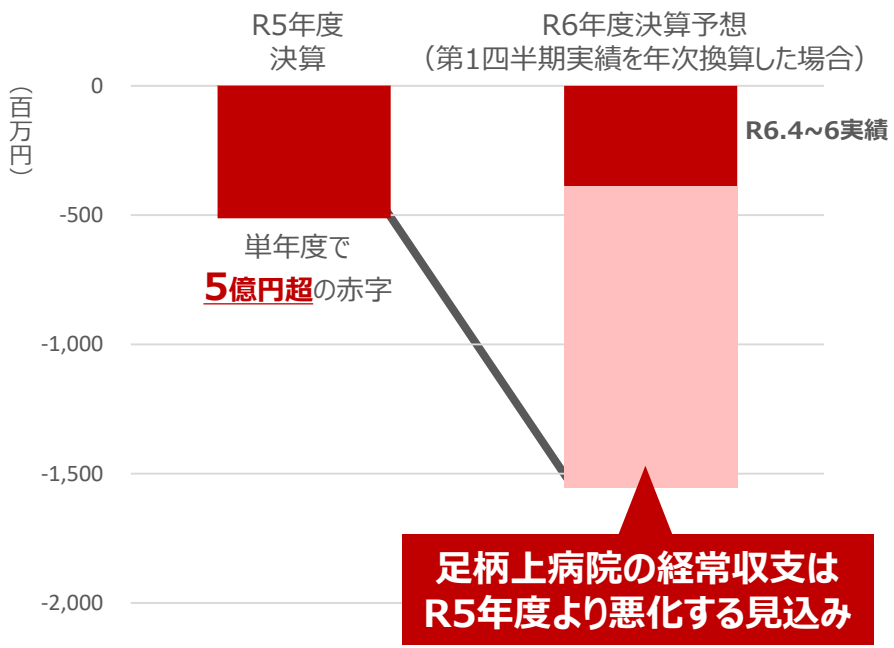
医師退職により
医業収益が大幅減少

年次換算した場合、
△1,556百万円

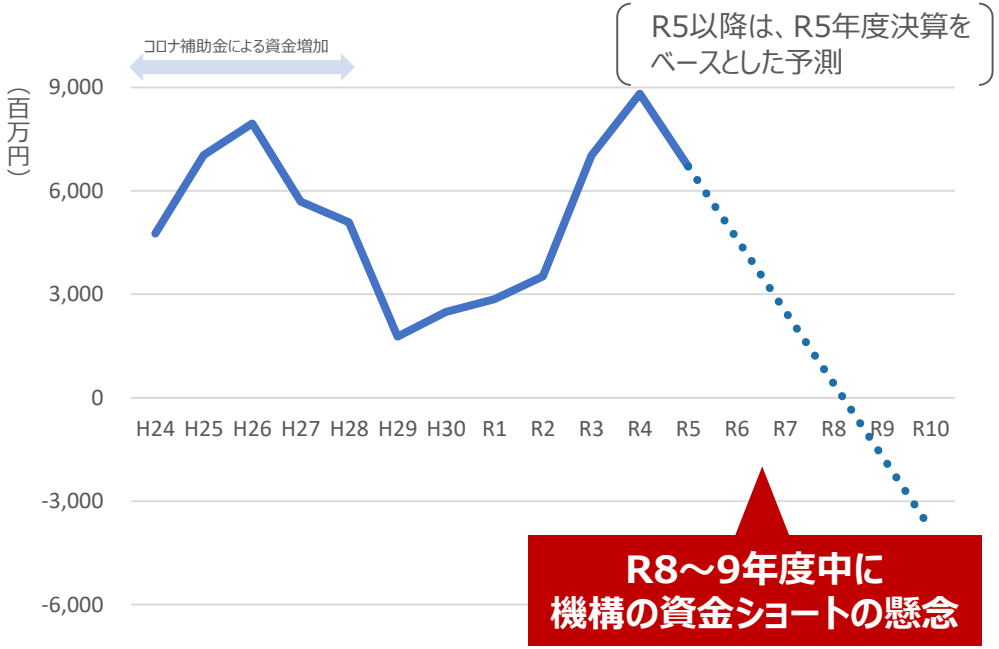
課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

足柄上病院の経常収支



病院機構全体の資金期末残高



数年を待たずに機構全体が資金ショートに陥ることが懸念され、機構各病院が収入増によりカバーしていく必要がある。

課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

従来計画の実施設計に基づく積算結果

新2号館

		予算額	積算額(見込額)	差額
1	新2号館増築工事（免震構造RC造）	5,892,000千円	5,891,600千円	△400千円
2	新2号館別途工事（LAN工事等）	33,000千円	33,000千円	0千円
計		**5,925,000千円**	**5,924,600千円**	**△400千円**

1・3号館改修

		予算額	積算額(見込額)	差額
1	1・3号館改修工事	1,785,850千円	1,335,400千円	△450,450千円
2	1号館昇降機改修工事	71,500千円	49,445千円	△22,055千円
3	1・3号館非常放送改修工事	23,000千円	23,000千円	0千円
計		**1,880,350千円**	**1,407,845千円**	**△472,505千円**

合計

計	**7,805,350千円**	**7,332,445千円**	**△472,905千円**

課題２　資金計画が現実と乖離、工事費用が高騰

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

神奈川新聞　2024年06月14日付　地区西

市立病院

再整備113億円増額

資材高騰、当初の1.7倍

小田原

2026年に開院予定の小田原市立病院の再整備を巡り、総工事費が当初想定から113億円増え、7割増の277億円となる見込みであることが13日、分かった。建築資材の高騰などによるもので、市は24年度分の工事費増額分8億8千万円を24年度病院事業会計補正予算案に計上したが「緩やかな物価上昇は現在も続いており、今後もさらに事業費が膨らむ可能性がある」としている。

新病院は地上9階建て（約400床、延べ床面積約4万2千平方㍍）で現在の7階建て（延べ床面積2万4千平方㍍）から規模を拡大し、耐震構造から免震構造に防災面も強化する。24年1月から本体工事が始まり、26年2月の完成を目指している。

21年の事業者提案時には建築単価は1平方㍍当たり約40万円で総工事費は164億円だった。しかし、その後に全国的な物価上昇や人件費高騰が響き、23年12月の工事契約締結時では建築単価は63万円、総工事費は260億円まで膨らんだ。

その後も円安進行などを背景に資材費の高騰は続き、工事費はさらに16億8千万円が増額される見込みとなった。建築単価も66万円まで増えたが、設計の一部見直しや安価の外装資材に切り替え、同時期で整備が進められている千葉市立新病院（建築単価80万円）などと比較し、工事費を切り詰めたという。

（深沢　剛）

2026年の開院予定で新病棟の建設工事が進む小田原市立病院＝13日、同市久野

2024.6.14 神奈川新聞

小田原市立病院 再整備113億円増額

資材高騰、当初の1.7倍

資材⬆　人件費⬆

足柄上予算額約**78**億円も　**1.7**倍!?　⬆

資材高騰等のさらなる継続により実際の費用は予算額約78億円を超え、R25年度までに見込む32億円の純損失が上振れする恐れがあり、機構全体の経営に影響を与える可能性

課題２のまとめ　適正な資金計画、再整備規模に修正

1. 前提としている**増収見込みが理想的見地**に立っている
2. 機構全体の**資金ショート**のおそれ
3. 資材高騰・人手不足による**純損失額の上振れ**のおそれ

将来につながる、よりコンパクトで効果的かつ効率的な、事業としての再考が必要。

再整備構想の再考

目指すべき病院の姿と再整備構想の再考案のポイント

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

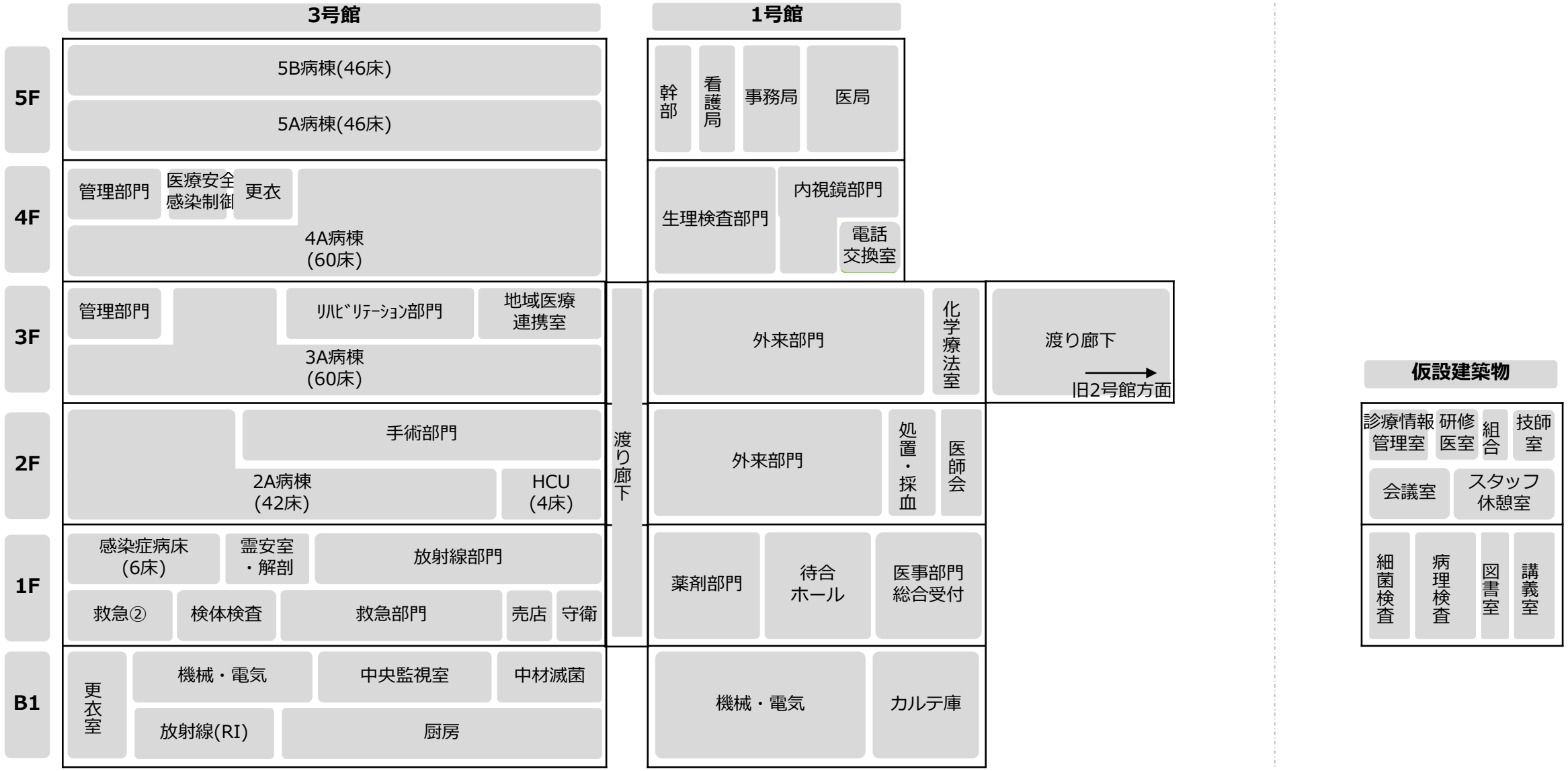
時代に合った形で、高齢者や地域住民を守る医療を提供し
医療DXを活用したモデル病院として、県内外に発信する

再整備構想の再考案のポイント

1. 建物は**コンパクト**に、機能は**DX**で**ワイド**に展開
2. **高齢者医療**部門（リハビリ等）の充実
3. 地域に開かれたエントランスで**地域連携部門強化**

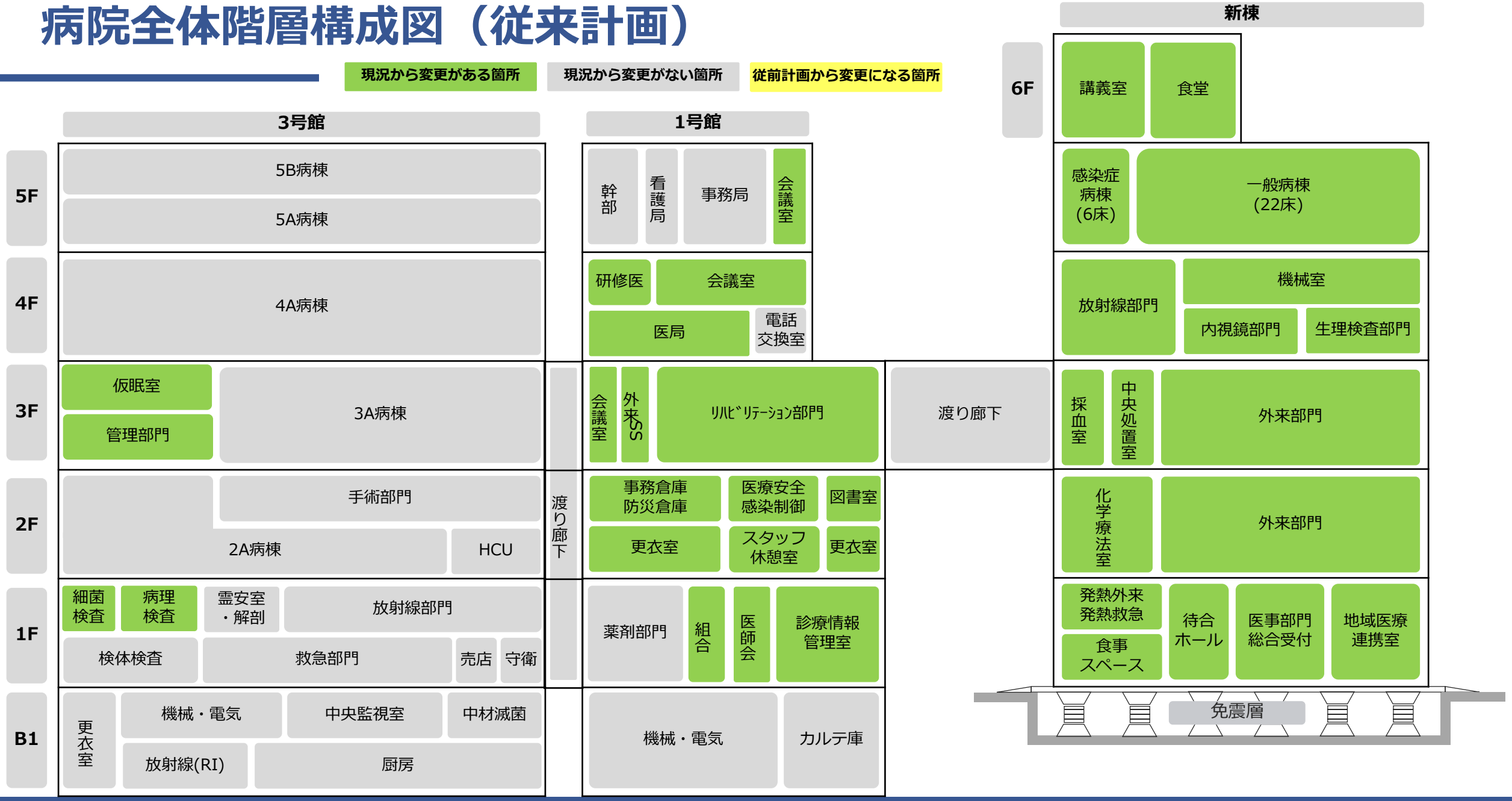
病院全体階層構成図（現況）

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構



病院全体階層構成図（従来計画）

現況から変更がある箇所　現況から変更がない箇所　従前計画から変更になる箇所

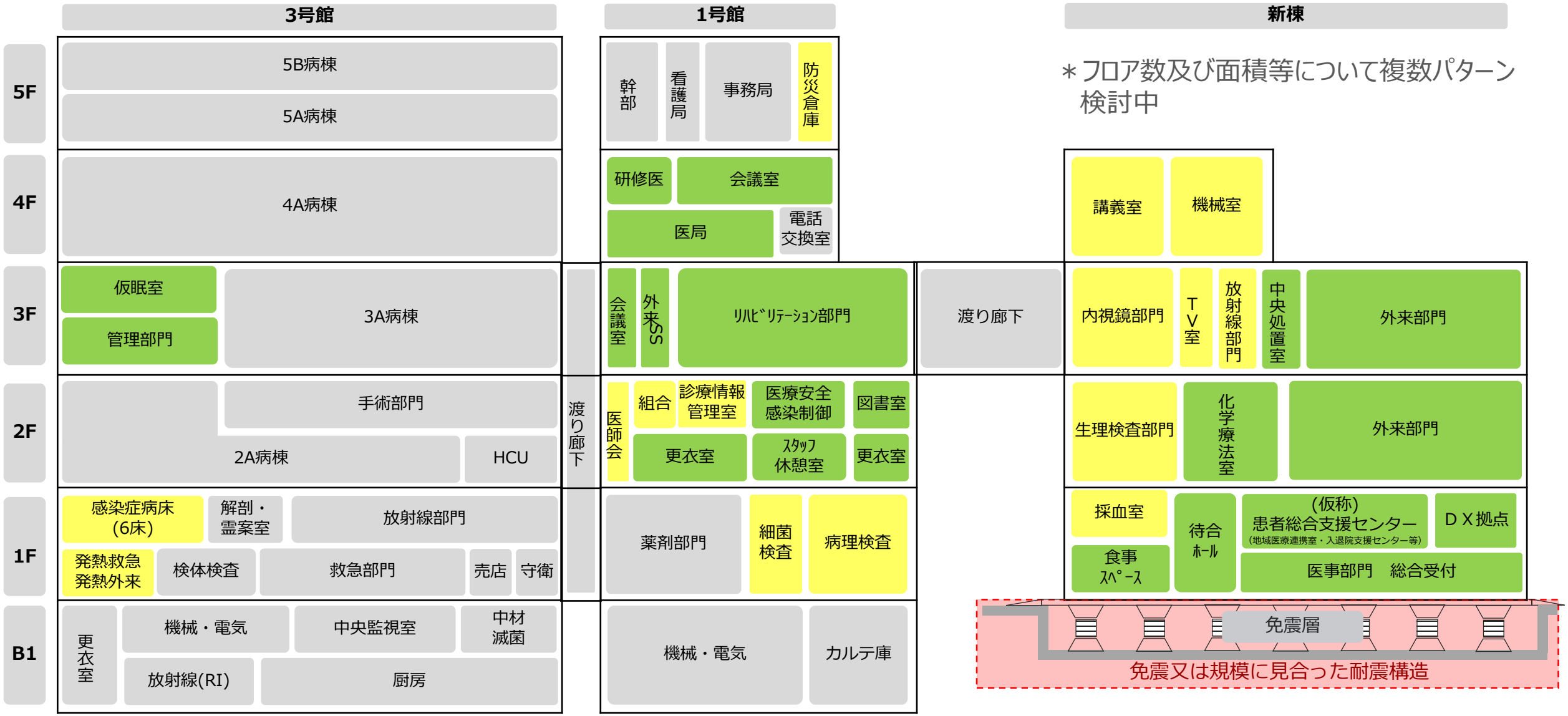


病院全体階層構成図（修正検討例）

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

現況から変更がある箇所　現況から変更がない箇所　従前計画から変更になる箇所

＊フロア数及び面積等について複数パターン検討中



（実施設計の段階で、図面が変更になる可能性あり）

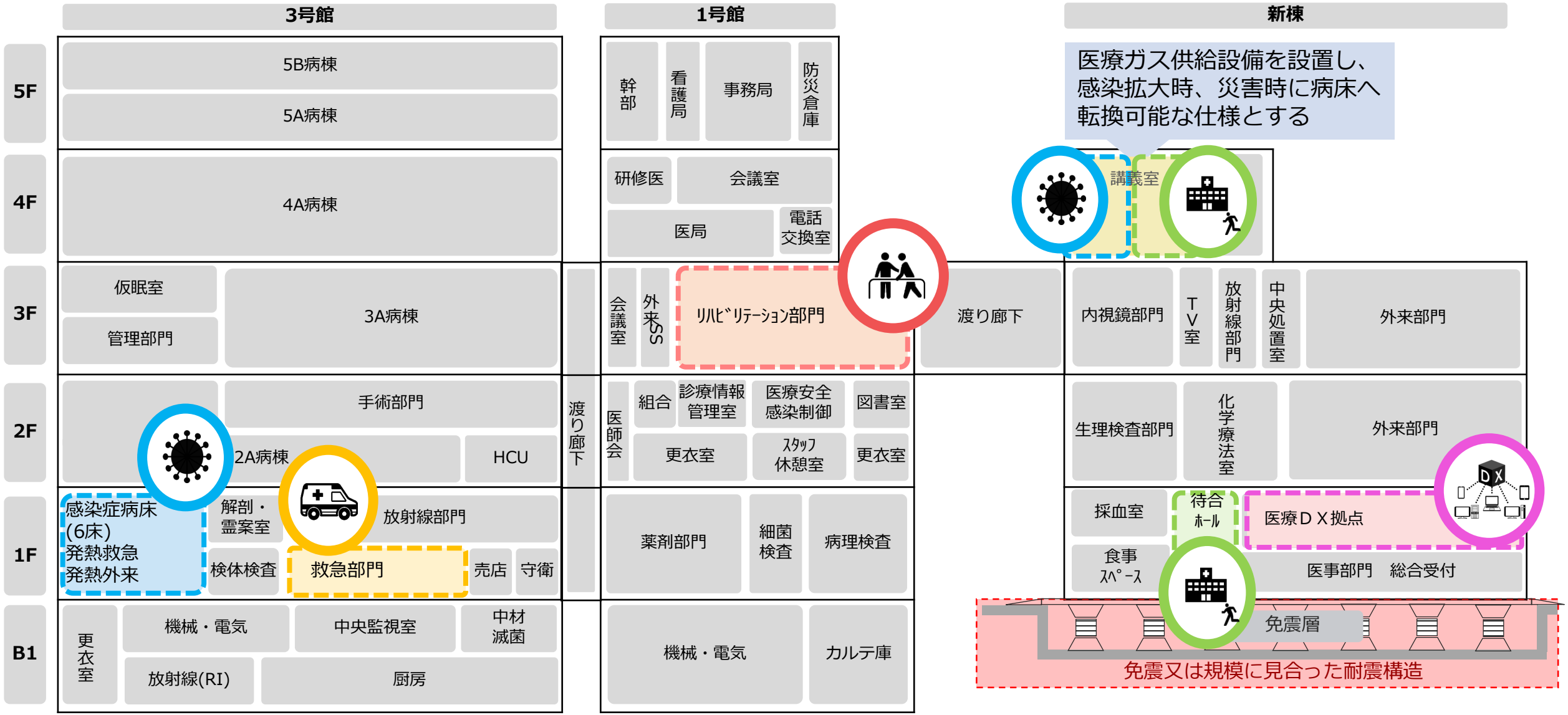
再整備計画の５つのコンセプト

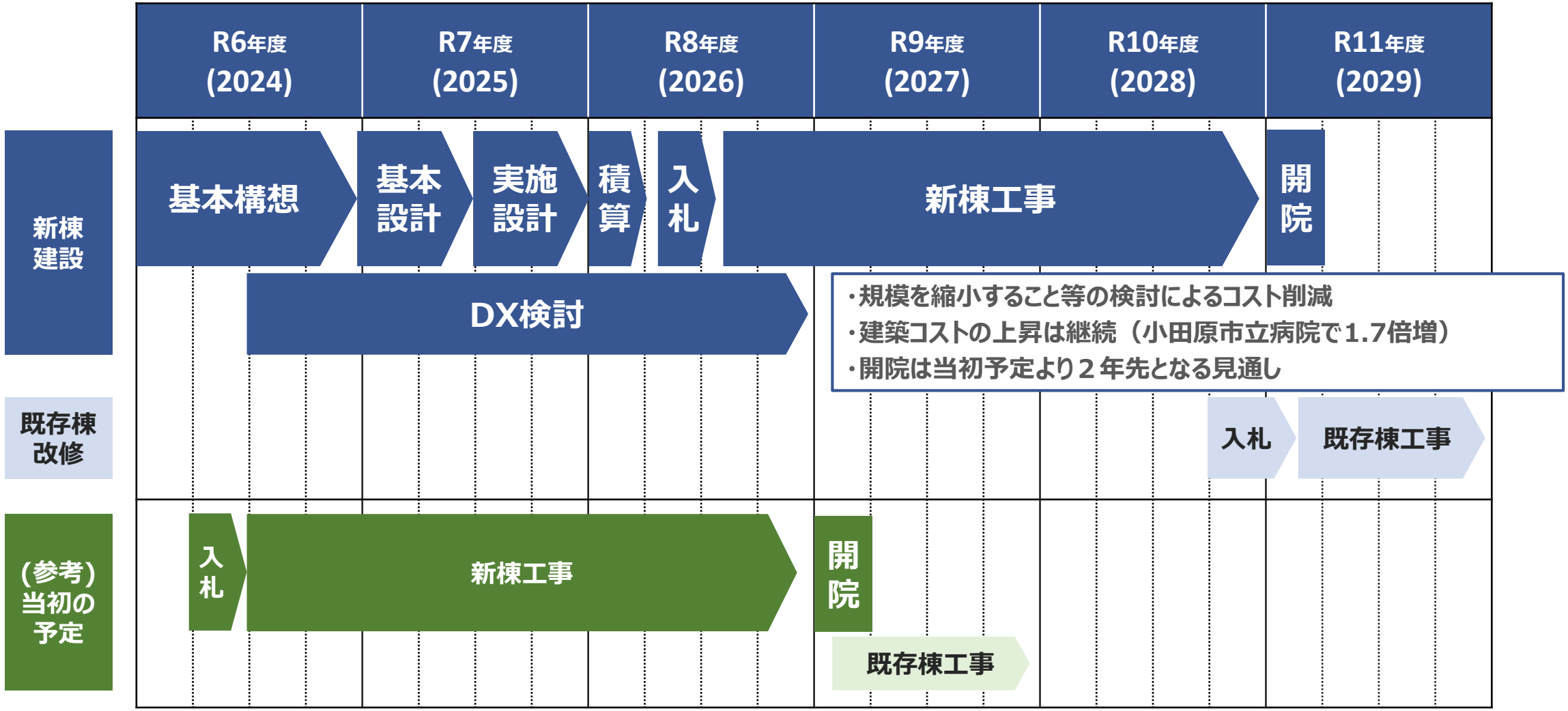
地方独立行政法人
神奈川県立病院機構

	＜回復期医療＞ リハビリテーションを拡張	１号館 ３Ｆ
	＜感染症医療＞ ●一般救急と感染救急の完全分離 ●感染拡大時は、医療ガス供給設備と病床転換可能な講義室を配備	３号館 １Ｆ
	＜災害時医療＞ 新２号館に防災機能を持ったエントランス・講堂を配備	新２号館 １Ｆ・４Ｆ
	＜救急医療＞ 高齢者医療の拡充	３号館 １Ｆ
	＜医療ＤＸ＞ 訪問看護等を含めた医療ＤＸブースの整備	新２号館 １Ｆ

再整備５つのコンセプト配置のポイント（検討例）

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構



全体スケジュール（例）

地方独立行政法人
神奈川県立病院機構